

## —中部港湾空港—

## 名古屋港のふ頭再編改良事業について

## 1. はじめに

名古屋港は伊勢湾湾奥部に位置し、中部のものづくり産業を支える重要な物流拠点であり、総取扱貨物量、輸出額、貿易黒字額、自動車輸出台数が日本一を誇る港である。

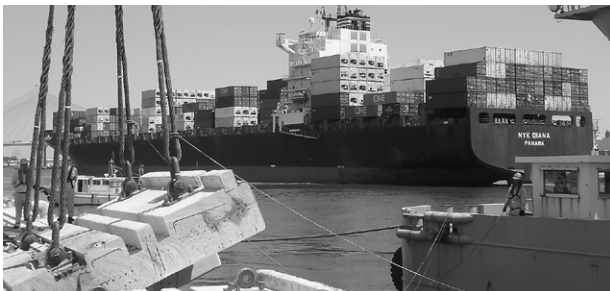
しかしながら、近年の世界的な船舶の大型化に対応した岸壁水深不足と、大規模災害時の物流機能の確保が課題となっている。このため、国際競争力の強化を物流面で支援するために、飛島ふ頭・金城ふ頭の再編改良事業を実施している。

## 2. 飛島ふ頭再編改良

飛島ふ頭東側コンテナターミナルは愛知県飛島村に位置し、名古屋港のコンテナ取扱量の約4割を取り扱う。近年では、主に東南アジア向けの貨物の伸びが著しく、外貿コンテナの取扱量は増加傾向にある。一方、入港するコンテナ船はカスケード現象を受けて大型化しており、その内の半数は水深15mが必要な船型であるため、現況の水深12m岸壁に接岸するためには喫水調整が必要となる。

飛島ふ頭再編改良事業は、既存の水深12m岸壁（R1、R2岸壁）を水深15mの耐震強化岸壁に機能強化する事業である。水深15mへの増深により満載喫水での接岸が可能となり、輸送効率が向上する。岸壁増深に加え、耐震改良することで南海トラフ巨大地震等の大規模地震に対して備えることもできる。

R1岸壁の岸壁増深・岸壁改良は平成29年度に工事着手しており、現在はガントリークレーンの撤去が完了し、既設栈橋の撤去に取り組んでいる。その後、新たな栈橋の構築に着手する予定である。



既設栈橋撤去（R1岸壁）

## 3. 金城ふ頭再編改良

金城ふ頭はレゴランド、ポートメッセなごや等の賑わい拠点であるとともに、完成自動車の輸出基地であり、公共岸壁の背後にはモータープールを備えている。しかし、現在の自動車用公共岸壁とモータープールは、金城ふ頭と弥富ふ頭に分かれており、両ふ頭間の横持ち（2次輸送）といった非効率な物流が生じている。また、大型自動車運搬船に対応できる水深12m岸壁は、弥富ふ頭の延長240m（1バース）のみであった。

金城ふ頭再編改良事業は、新規耐震強化岸壁（水深12m）と既存岸壁の増深改良を行うとともに、岸壁背後に造成するふ頭用地にモータープールを集約する事業である。これにより水深12m岸壁は、ふ頭内に2バース確保できることとなり、大型自動車運搬船への受入体制が向上する。飛島ふ頭再編改良と同様に、耐震強化岸壁として整備するため、大規模災害時にも輸送機能が維持できる。

新規岸壁は平成30年度に工事着手しており、本年度は地盤改良工とハイブリッドケーソンの製作を進めている。



金城ふ頭のハイブリッドケーソンの鋼殻

## 4. おわりに

名古屋港は、物流拠点、且つ交流拠点として重要な港である。引き続き、中部のものづくり産業と暮らしを支える港づくりに努めていきたい。

（国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所）